

社会文教建設常任委員会研修会報告

2021 年 10 月 14 日（木）10 時～11 時 場所：委員会室
参加人数：委員会委員 5 名・他議員 1 名 農林水産課職員 3 名

講師：岩崎正春氏（津久見市猟友会会長）・宇都宮農林水産課長

研修テーマ：「津久見市における害獣駆除の実情及び成果と課題について」

<質問事項>

1 猟友会会員の高齢化について

- ・45 歳以下でとる免許に対する補助 女性は制限なし
- ・わなの免許は取るが、猟銃の免許はハードルが高いため、なかなかとる人が少ない

新銃だと 30 万円ほどかかる。この他に、登録料などがかかる。猟をやめる人から銃の譲渡をしてもらっている。



2 シビエ料理などへの活用について

- ・津久見市では 1 軒ほどある。（処理施設）
- ・開店まで 200 万円～250 万円かかったと聞いている。



3 エアガンなどを地域に貸し出すことなどについて

- ・以前は花火を配ったりしたことがあるが、地域の人（特に女性）が、その取扱いや獣を怖がって対応してもらえないことがあった。
- ・イノシシが子どもを連れていたら危ない。襲いかかってくることもある。今は年に 2 回ほど出産時期を迎えているようだ。シカは、カボスの葉が好きなようだ。

4 鉾山内での駆除について

- ・青江区から要望が出ていて、調整中である。
- ・志手町から入船にかけての被害が最近多い。人家にまで出没している。

5 対策について

- ・自分の畑は自分で守ることが大切。
- ・柵（ワイヤーメッシュ等）を作っても、あとの管理が大切。（周囲の草刈りをするとか、穴をふさぐとか）
- ・猟をするとき、柵に穴が開いていてイヌやイノシシは通過できるが、人が通過できないのが困る。
- ・彦岳風力発電の建設・・・低周波などがあるとイノシシは逃げるのではないか
- ・鉾山内で困っていることはないか企業との連携が必要である。



<課 題>

- ・鉾山会社との連携
- ・休猟区の見直し
- ・柵の管理